SSRI　ちょっと一言
Give me a break !

豪海軍潜水艦契約破棄問題とフランス

藤岡智和

オーストラリアがフランスに発注した潜水艦建造計画を破棄したことに対しフランスが激怒していると報じられているが、この話はそんなに単純な問題ではないと思う。

元々、自国がヨーロッパの中心と自負するフランスは米国中心の NATO に乗り気ではなかった。　結成当時 NATO は本部をブリュッセルではなくパリに置いていたが、誇り高きドゴールが大統領になると 1966 年に NATO の軍事部門から脱退した。

その後フランスは復帰したものの欧州独自軍の考えを捨てたわけではなく、EU 軍の創設に向け奔走している。　この EU 軍構想には英国が強く反対していたが、トランプ政権の自国中心に疑念を持ち始めた EU 加盟諸国の動きを背景に英国が EU を脱退したのを機に、再び EU の軍事部門強化に力を入れだした。

ただ、ロシアの軍事的脅威に直接晒されているため米国の軍事力への依存が大きいヨーロッパ諸国には EU 独自軍には慎重な国々も多く、独自軍構想はフランスの思い通りには進んでいない。

ここに来て突発した豪海軍潜水艦問題をフランスは、かねてからの対米不信論のブースターに使用すべく、政治的に利用しようとしている節がある。

そもそも豪海軍潜水艦 12 隻をフランスへの発注したのには豪国内から異論が相次ぎ、当時の日本の提案を最善とする声は豪国防関係者の間では根強いとされていた。

オーストラリアが潜水艦をフランスに発注したのは、親中派とされる当時のターンブル首相が対中配慮から、有力候補であった「そうりゅう」型を日本に発注するのを避けるためであったとの見方もあった。　そうりゅう型が既に海上自衛隊で就役しているのに対し、フランスの提案は Barracuda 級原潜を通常動力型にするという机上案であったため、価格見積もりや性能などが不確実で、後々両国間でのトラブルを生む原因となった。（2021 年 9 月 24 日）